

若い力を結集し、業界の課題解決へ

全国大会記念対談



全旅連青年部 部長
西村 総一郎氏



全旅連青年部 次期部長
鈴木 治彦氏

雇用確保、若者に魅力発信へ

——(司会)日本社・森田淳 西村 体制の1年半を振り返ると、西村 ます、民泊問題への対応。前期の桑田体制(桑田雅之部長、平成27、28年度)では政策担当副部長として、この問題に取り組んできたが、引き続きコミットした。匿名性の排除と地方の裁量権の確保。活動の後半はこの二つを柱に取組んだが、ある程度、実現できたのではないかと。匿名性の排除は民泊事業者の届け出や仲介事業者の登録制。地方の裁量権は民泊営業を抑制する条例の制定を自治体で可能にする。特に仲介事業者の登録制は、ほかの国にない制度で、いい制度だと海外のホテル協会から評価されている。登録制の仲介事業者に対して違法物件の掲載を排除する義務を負わせることは大変大きい。

地方の条例は格差もあるが、各地で次々と作られ、われわれ業界が壊滅的な打撃を受ける事態は避けられた。われわれの活動が功を奏し、民泊については抑制的に物事が進んでいる。ただ、法律は3年後に見直す規定がある。今後どうなるか分からないので、引き続き注視する必要がある。事実に基づいた提言や、われわれの意見を反するものについては反論をしていかねばならない。

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会(全旅連)青年部は10月30日、長崎市の長崎ブリックホールで2年に一度の全国大会を開く。全国の青年部員約800人が集結し、宿泊業界を取り巻く諸問題を議論する。全国大会を前に西村総一郎部長(兵庫県・西村屋本館)と、9月26日の臨時総会で次期部長に内定した鈴木治彦副部長(岡山県・名泉鍵湯奥津荘)に西村体制の回顧と次期鈴木体制の方針を語ってもらった。

——現体制は来年3月まで残り半年。10月に全国大会、来年2月に「旅館甲子園」という大きな事業を控えている。西村 全国の部員と課題を共有し、力を合わせて解決する機運を盛り上げるのも事業の狙いの一つ。次期に向けて勢いをつける意味でも、盛り上げる大会にしたい。



対談は東京の全国旅館会館で実施

民泊問題、活動の成果表れる

——先日外国人観光客の医療問題について、自民党の先生方に呼ばれて意見を述べた。西村 外国人観光客が増えるのは結構なことだが、いろいろ問題もある。特定の地域だけでなく、地方に動いてもらわなければならない。地方空港のさらなる国際化が必要だ。来年のラグビーワールドカップ(W杯)や2020年のオリンピック、パラリンピックはいい機会になるだろうが、外国人の行動パターンをウォッチして、データを収集して、次に生かすべきだ。

——城崎にはインバウンドがかなり入っているが、以前西村 確かに入っているが、以前のような伸びはなくなった。地方で

——鈴木 私の旅は年間でも何らかい外国のお客さま。全国的にインバウンドが増えていくが、奥津荘はここ数年、同じペースで推移している。何かのきっかけで爆発しないか期待はあるのだが。

——岡山県全体を見ると、県南の岡山市や倉敷市は、特に欧米のお客さまが目立っている。ただ、西村部長の言う通り、県南と県北を結ぶ二次交通が弱いため、県北までなかなか足を運んでいただけない。

——私の宿では毎月の予算を決めて、イン스타그램とフェイスブックの広告を香港、台湾、韓国、3カ国・地域に打つようにしている。効果が上がるのは半年から1年後、すぐに

4面に続く

MISAWA
お客様に選ばれる宿空間へ
ミサワホームのデザインリフォーム

美しい宿、お客様の記憶に残るリフォームのご提案をいたします。
外国からのお客様のニーズを考慮したリフォームの実績も多数ございます。
下記連絡先までお問い合わせください。





ホテル黒部様 紋別プリンスホテル様 上野ファーストシティホテル様